

## 日本農業新聞

長野県の農業生産法人「トップリバー」と富士見町、JA信州諏訪が連携し、高原野菜の産地づくりと新規就農者の育成を両立するプロジェクトを開始する。同町の遊休農地を集約して再生し、延べ100畝でレタスを生産。就農希望者を同法人の研修生として雇用しながら町内での独立を支

援し、もうかる農業の実践を通じて「地方創生」につなげる計画だ。

同法人は既に町内でレタスを26畝栽培し、飲食店チェーンを展開する企業などと契約取引により1280トを出荷している。同法人によると、取引先から「もっと欲しいと言われる」状況で、プ

## 両立へプロジェクト

## 新規就農者の育成

## レタス産地づくり

プロジェクトを通じて2020年までに生産量500トの確保を目指す。プロジェクトで、町は農地の確保や集約を担当する。JAは生産した農産物の販売や営農指導、地元農家との橋渡しなどの役割を果たす。具体的には、農地集積バンクなどを通じて遊休農地や規模を縮小したい農家から

プロジェクト名は「富士見みらいプロジェクト」。行政やJAと連携した農業生産法人主導の地域振興策として、農林中央金庫の「農林水産業みらい基金」の助成を受

農地を集め、町の新規就農者受け入れ事業を通じて同法人に就農者を研修生として紹介する。季節雇いを含め年間65人の雇用を生み出す目標だ。

同法人は担い手の育成拠点として、町内に研修場を新設。研修生は農繁期に農作業を通じて栽培技術を学び、冬は研修場

長野県の農業生産法人、富士見町、JA信州諏訪 遊休地 延べ100<sup>ヘクタール</sup>で